

家畜の命に向き合う Animal Welfare 新聞

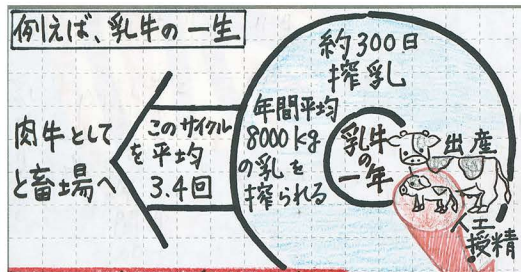
2024.8.31
福住小学校
5年

前田 衣咲

二年前、網走市の牧場を訪れ、乳牛の一生について知りました。それは、決して幸せと言えるものではなかったのです。毎日食べている命の扱われ方のことを考えるようになりまし。日本の畜産現場の多くは動物にとって過酷すぎると言われてます。人間が生きていくために、その命を奪われる家畜。生まれてからと畜されるまで、できるだけストレスを少なく生きられるように、アニマルウェルフェアの考えに基づいて取り組んでいる方々に取材しました。

- ### アニマルウェルフェア (AW) の考え
- 家畜に5つの自由を
- ① 飢えや渇きからの自由
 - ② 不快からの自由
 - ③ 痛み、傷、病気からの自由
 - ④ 本来の行動ができる自由
 - ⑤ 恐怖や不安からの自由

まずは、現状を知ることから



生産性重視 動物には辛い

●スーパーカウの登場●

本来、子牛を育てるのに必要な乳量は年間1000kg。ところが過酷な品種改良により20000kgも出るスーパーカウ。立てなくなったりお産がとて苦しかった。

●一般的な飼育方法はつなぎ飼いです●

本来群れで行動する牛なのに我が子とも別れて一生身動きがとれないケースもある。

グラスフェッド (牧草飼育) いいところ

草を採って重なる運動量UPで引きはったお肉に。

牛本来の食生活とても健康的

穀物飼料の輸入が動物の肥育に自然環境の維持



この日の気温は34度。暑さに弱いホスタインにとって最近の夏は辛い。また虫が多発生し目の周りに集まってきた嫌そうでした。

干草のベッドで休んでいたアキちゃんを見てのベツ持ちは、い。と言っているみたいでした。朝夕標を新しい干草を敷いてもらっているふかふかベッドです。佐竹さんは牛が言っていることは大体分かるとおっしゃいます。牛たちは草に好みがあるそで、佐竹さんが持つてきてくれる刈り立ての草が大好きだそうです。春は放牧の時間が近づいてくるとゲートの前にやってくるベツと催促するそで。暑い夏は大型扇風機から離れないとも。おいしいものは嬉しいし暑さは人と同じ様にしんどいのです。

人も動物も幸せな畜産とは...

6頭の牛を迎えてくれる私の大好きな牧場。グリーンリー農場さん。今年もお仕事の様子を見学させていただきました。

牛にも気持ちがあるよ

干草のベッドで休んでいたアキちゃんを見てのベツ持ちは、い。と言っているみたいでした。朝夕標を新しい干草を敷いてもらっているふかふかベッドです。佐竹さんは牛が言っていることは大体分かるとおっしゃいます。牛たちは草に好みがあるそで、佐竹さんが持つてきてくれる刈り立ての草が大好きだそうです。春は放牧の時間が近づいてくるとゲートの前にやってくるベツと催促するそで。暑い夏は大型扇風機から離れないとも。おいしいものは嬉しいし暑さは人と同じ様にしんどいのです。

1日2回行う

搾乳・給餌

搾乳の時間が一番好きです。牛と一緒にいられるので。

牛舎の清掃

寝床に干草を敷く

乳製品の加工・配送

搾った牛乳からバターやチーズを製造し、販売しています。

朝 2:00 起床

搾った牛乳からバターやチーズを製造し、販売しています。

夜 早くに寝

搾った牛乳からバターやチーズを製造し、販売しています。

と畜場にこそ動物たちへの配慮を

と畜場とは...

家畜が最後に行きつく場所、命ある動物が、その命を奪われ食肉になる場所です。辛い現場に真っ向から向き合い、感情をもった動物たちの扱われ方が改善するよう働きかけている方がいます。と畜検査員の奥野尚志さん。と畜場にきた動物の健康状態をチェックしたり、食肉に適しているか判断したりしています。獣医師でもありAW畜産協会事務局長でもある奥野さんにお話をうかがいました。

と畜検査を通して見えること

- 豚の断尾や耳刻
- 麻酔なしでしっぽや耳を切るのは苦痛そのもの。
- 怪我、起立不全の牛
- 積み込み時や輸送時に雑な扱いを受けているのでは。初めての環境で疲れている。
- 給水設備のない環境
- 農場からと畜されるまで丸一日以上。水を飲むことができない施設がほとんど。

奥野さんの思い

「食は命の置き換わり」牛や豚などの家畜だけではなく魚や貝などの水産物、植物にも必ず命はあります。多くの命の助けで私たちの生活は成り立っています。生産性重視の工業的なやり方ではなく、家畜のストレスの軽減に配慮し、最後まで感受性をもった生き物として扱う必要があります。品質だけでなく、心を痛めながら働く人と畜に関わる人々のストレス軽減にもつながります。肉になる過程に、食肉処理施設があることもっと多くの人が知ってほしいです。

取材を通して考えたこと

グリーンリーさんの牛たちの個性は。本当にかわいいです。のんびりだった、食いしんぼうだったり。わが子のように牛たちのことを教えてくれます。そんな牛たちも最後に行きつく場所はと畜場。だからこそ、できるだけストレスのない丁寧な扱われ方をしてほしい。最後の最後まで動物にストレスを与えずに活動する奥野さん、牛たちを愛情たっぷりに育てている佐竹さん、奥野本場に尊敬しています。これからはアニマルウェルフェアの考えが日本中、世界中に広まっていくといいです。私ができることは何だろうと考える続けたいです。

動物たちに不要の苦痛はいらない!